

ガーナでそろばんプロジェクト96号(2021年10月04日)

★★ 50人越えのクラスでできるそろばん指導について考える ★★

今年1月から学校が再開になり、学期休みは分割されあるなか、その分割学期休みも終わり2週間が経ちました。コロナ前なら、この学期休みを利用してのそろばん教室は、子どもたちがもつとも力をつけられる時でもありました。そろばん教室に通う生徒には、教室開室日カレンダーを渡し、それぞれに頑張りを労い続けて通うように声をかけるのが楽しみの一つでした。しかし、終わりの見えないコロナ禍で、また分割休み中でのそろばん教室開室を考えることはありませんでした。先日、コロナ禍になる前に教室に通っていた生徒から「次の日曜日にそろばん教室をやつて。」と言われましたが、私は「やらない。」とただ一言答えました。さて新学期になって2週間経過する中で、先生不足から3年生4年生の合同クラス、5年生6年生の合同クラスで授業が行われています。合同クラスともなると、3年4年のクラスは50人越え、5年6年のクラスは40人越えになります。授業に入ると、学校生活をする上での集団にはなっています。4年生だけでのそろばんの授業でも進め方に悩んでいたのに、合同クラスともなると「誰一人取り残さない」の思いでやってきた授業だからこそ、足踏み状態になってしまいました。また休み時間明けの授業は、クラス全員が集まるまで時間がかかり、授業が始まっているのに器に盛られた給食を食べ始める子どもがいたり、休み時間に食べきれなかった袋に入った安いアイスを食べている子どももいたりとして学級崩壊という言葉は好ましくなくけれど、まさにその状態が起きているのが現状なのです。そうした現状とは裏腹に4年生の子どもからそろばんを望む声は多いのです。繰り上がり、繰り下がり計算にはまだいい

もの、どの子どもやはりそろばんの魅力に気づいた証拠です。前回の報告のあとに、ともえ先生から4年生には繰り上がりのない計算でも桁が大きいとやりがいもあると助言をいただき、その実践をしていき、そこから繰り上がり繰り下がりをしていこうと思っていた休み明けが合同クラスになってしまいました。合同クラス初回、3年生向けにすることはなく、これまでしてきた4年生の進め方で授業をしました。近いうちにこの合同クラスがこれまで通り通常クラスになることを強く願うしかありません。



協賛



トモエそろばん様

報告 TOSHIKO